

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校ファースト学園金沢校		昭和59年12月25日	加藤 泰博	〒 920-0022 (住所) 石川県金沢市北安江1-6-27 (電話) 076-222-5088				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人ファースト学園		平成6年3月2日	林 直樹	〒 920-0022 (住所) 石川県金沢市北安江1-6-27 (電話) 076-222-5088				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業専門課程	情報システム科	平成28(2016)年度	-	-			
学科の目的	情報処理技術に必要な実務教育を行うことにより、技術者としての技術を培い、社会に貢献できる人材を育成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	コンピューター概論、プログラミング、Webプログラミング、Webデザイン、グラフィック、クラウドサービス、スマートフォンアプリ開発、製図、オフィスITサポート、Webクリエイター能力認定試験、Microsoft Office Specialist Word、Microsoft Office Specialist Excel、Microsoft Office Specialist PowerPoint、ビジネス能力検定(B検)ジョブパス、ビジネス文書検定							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2	年	※単位時間、単位いずれかに記入 86 単位	単位時間 22 単位	単位時間 72 単位	単位時間 2 単位	単位時間 単位	単位時間 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
40 人	38 人	4 人	11 %	5 %				
就職等の状況	■卒業生数(C)		14	人				
	■就職希望者数(D)		11	人				
	■就職者数(E)		11	人				
	■地元就職者数(F)		9	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		82	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		79	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	就職も進学も希望しない学生数:1人、アルバイト後就職希望者数:1人、自動車免許取得後に就職活動希望者数:1人							
(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和6年度卒業生)								
就職先:株式会社Ansel Technologies、株式会社スティビー、株式会社ナレッジ21、北陸アルミニウム株式会社、株式会社アイデン、株式会社クスリのアオキ、株式会社スタッフサービスエンジニアリング								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載							
当該学科のホームページURL	https://fcti.ac.jp/course/i-system/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		0 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間						
うち必修授業時数		単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間						
(B:単位数による算定)								
総単位数		86 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		12 単位						
うち必修単位数		12 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		12 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			0 人		
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			3 人		
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			0 人		
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			0 人		
	計					3 人		
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					2 人			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

社会が求める人材育成を実現するために、専門家との検討を経て教育課程編成をおこなう。
実施過程において専門家によるプロセス確認を実施し、多面的な見解反映と指導を実施する。
翌年度のカリキュラム編成と活動計画決定に外部専門家のアドバイスを踏まえた検討を実施する。

* 実施時期はカリキュラム作成手順に記載している

7月から9月 委員会実施と意見集約

9月 委員会の結果反映確認

3月 委員会での振り返り実施

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

以下の手順で学科のカリキュラムや活動について評価検討を実施する。

委員会実施

- ・前年度実績報告
- ・意見収集
- ・評価と慶全提案検討(業界からのニーズ収集)

↓

学科内カリキュラム検討・学科活動案成

↓

委員会実施

- ・委員会による意見交換と提案収集

↓

学科内カリキュラム・活動計画決定

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
塚野 芳知	石川県印刷工業組合	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
桶谷 善徳	株式会社ハイテクス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
加藤 泰博	専門学校ファースト学園金沢校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
山上 むつき	専門学校ファースト学園金沢校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
荒田 真一	専門学校ファースト学園金沢校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月18日 16:30～18:30

第2回 令和7年3月10日 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会では、産業構造の変化や学習者層の多様化に対応するためには、産業界の最新動向や人材ニーズを把握し教育課程に反映させる仕組みが必要であるとの意見が出された。これを受け、今後は産業界や卒業生からの情報収集を定期的実施し、ポリシーやカリキュラムに反映していくこととした。また、専門科目と一般科目のバランスを見直し、社会人基礎力を養成する授業や日常教育を体系的に位置づけるとともに、検定試験の目的や範囲を明確化し、学習成果と成長過程を評価する仕組みを導入することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学生が現場の課題を自ら解決できる力を養うことを目指し、実践的な教育を提供するため、教育機関と企業が連携し実習・演習をおこなう。学生の実習・演習成果は、企業等と連携しながら定量的・定性的に評価する。実施にあたり、企業の視点からのフィードバックを重視し、学生の技術能力における成長と社会人としての能力を育む指導を実現する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業の現場で活躍する専門家を講師とした授業を実施する。実施にあたり、授業概要の説明と確認をおこない、開講期間中は進行やスキル習得状況を管理する。評価は企業と学校でおこない、目標達成度と業務遂行能力や問題解決能力の向上について評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
Webプログラミング	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	HTML、CSSを用いたWebページの作成方法とJavaScriptを用いた動的なWebページの作成技法を学ぶ	株式会社ビーハウ
Webデザイン	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	Webサイトの設計から、コーディングまでを通して学ぶ	株式会社ビーハウ
グラフィック1	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	Photoshopの基本操作を理解し画像編集の技術を学ぶ	株式会社ビーハウ
グラフィック2	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	Illustratorの基本操作を理解し、オブジェクトを編集しコンテンツ制作を学ぶ	株式会社ビーハウ
製図基礎2	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	Jw_cadを使用し製図の基礎を理解し、JIS規格に基づいた製図の基本を学ぶ	株式会社ハイテクス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「教職員研修に関する規程」第4条に明記されている。

(教職員の責務等)

第4条 教職員は、絶えず資質の向上に努めなければならない。

2 教職員は、専攻分野における実務に関する知識、技術並びに授業及び学生に対する指導力等の修得・向上を目的とした研修の受講を命じられた場合、受講しなければならない。

3 研修を受講した教職員は、その職責を遂行するために、研修成果を活用するように努めなければならない。

4 研修を受講した教職員は、所定の様式にて研修報告書を学校長に提出しなければならない。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	機械製図の基本と指導方法	連携企業等:	株式会社ハイテクス
期間:	2024年9月18日	対象:	教員
内容	JIS機械製図の基礎と図面作成および指導方法		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	マイクロソフトMVPから学ぶオンラインセミナー	連携企業等:	マイクロソフトMVP
期間:	2024年10月27日	対象:	教員
内容	注目してもらえらるわかりやすいPowerPointでのスライド作成操作と実践		
研修名:	専門学校における発達障害の支援	連携企業等:	筑波大学ダボットプロジェクト
期間:	2025年1月16日	対象:	教員
内容	障害のある学生を理解し専門学校として実践的な対応や的確な支援について学ぶ		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Python機械学習プログラミング	連携企業等:	シェアジャパン株式会社
期間:	2025年12月	対象:	教員
内容	身近な課題を解決しながらアルゴリズムと機械学習の基礎を学ぶ		

研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	発達障害のある子どもたちへの支援方法について	連携企業等:	カウンターポイント
期間:	2025年12月	対象:	教員
内容	発達障害のある学生の困難を理解し、支援に関する実践的な対応方法を学ぶ		

研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専門学校ファースト学園がより実践的な職業教育に資する学校であるために自己点検を実施する。合わせて、自己評価結果の客観性・透明性を高め、学校に関連する企業・団体、卒業生、保護者など、密接に関係する者の理解と継続した連携協力体制を維持確保するために「学校関係者評価委員会」を設置する。
当該委員会の委員での助言、意見などの評価結果は学校運営等の改善に活用され、評価結果と改善への取り組みを本校ホームページに掲載し広く社会へ公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ② 学校における職業教育の特色は定められているか ③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか ⑤ 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 目的等に沿った運営方針が策定されているか ② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑤ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ⑥ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか ⑦ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩ 資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪ 人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 就職率の向上が図られているか ② 資格取得率の向上が図られているか ③ 退学率の低減が図られているか ④ 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ①進学・就職に関する支援体制は整理されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥学生の生活環境への支援は行われているか ⑦保護者と適切に連携しているか ⑧卒業生への支援体制はあるか ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②施設・設備は、学生生活の必要性に十分対応できるよう整備されているか ③カリキュラムに必要な実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか ④防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ①高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか ②学生募集活動は、適正に行われているか ③学生募集活動において、教育成果(資格取得・就職状況等)は正確に伝えられているか ④学生納付金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ④自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ①留学生の受入れについて戦略を持って国際交流を行っているか ②留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ④学修成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学修成果向上のため、目標と対策を明確化する。地域との係わりをより深めるために情報収集と情報公開を行う。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
-----	-----	-----	-----

西川 珠紀	第一学院高等学校金沢キャンパス	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校
坂本 博	北安江居住	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域住民
竹田 太志	株式会社C8LINK	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	関係業界
中山 賢	ホクショー株式会社	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者
山下 周市	日本海電化鋳造株式会社	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://fcti.ac.jp/information/%e6%83%85%e5%a0%b1%e5%85%ac%e9%96%8b/>

公表時期: 2024年6月28日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専門学校ファースト学園がより実践的な職業教育に資する学校であるために企業への情報提供を実施する。学校に関連する企業・団体へ主に学生支援課から、学科の学ぶ内容や卒業時の身につく能力、進路決定状況など、社会や企業から求められるニーズに合わせて発信し、情報共有している。これにより、学生の能力や特性についてのより深い理解につなげ、社会で人材を生かせる機会の増加を目指す。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ②学校における職業教育の特色は定められているか ③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか ⑤各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ①目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑤業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ⑥教育活動に関する情報公開が適切になされているか
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③退学率の低減が図られているか ④卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 様々な教育活動・教育環境	①進学・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥学生の生活環境への支援は行われているか ⑦保護者と適切に連携しているか ⑧卒業生への支援体制はあるか ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
(6) 学生の生活支援	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②施設・設備は、学生生活の必要性に十分対応できるよう整備されているか ③カリキュラムに必要な実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか ④防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生納付金・修学支援	①高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか ②学生募集活動は、適正に行われているか ③学生募集活動において、教育成果(資格取得・就職状況等)は正確に伝えられているか ④学生納付金は妥当なものとなっているか
(8) 学校の財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 学校評価	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ④自己評価結果を公開しているか
(10) 国際連携の状況	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) その他	①留学生の受け入れについて戦略を持って国際交流を行っているか ②留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ④学修成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(SNS))

URL: <https://fcti.ac.jp/category/news/page/2/>

公表時期: 通年

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			コンピューター概論	学校で必要になるITに関する基礎知識	1前	90	6	○			○			○	
2	○			プログラミング基礎1	Java言語の基礎（変数、制御構文、メソッド）を学習し、プログラムの考え方・作り方	1前	45	2	△	○		○		○		
3	○			プログラミング基礎2	AIの分野で使われることが多いPythonを学習し、AI学習の基礎とする	1後	45	2	△	○		○		○		
4	○			プログラミング応用	Java言語の文法を通し、オブジェクト指向、関数型プログラミングの考え方を学ぶ	1後	90	4	△	○		○		○		
5	○			AIプログラミング	Pythonを用いて、AIのプログラミング技法を学ぶ	2後	90	4	△	○		○		○		
6	○			Webプログラミング	HTML、CSSを用いたWebページの作成方法とJavaScriptを用いた動的なWebページの作成技法を学ぶ	1前	45	2	△	○		○			○	○
7	○			Webデザイン	Webサイトの設計から、コーディングまでを通して学ぶ	1後	90	4	△	○		○			○	○
8	○			Webアプリケーション	サーバーサイドでHTMLを出力するサーバーサイドWebアプリケーションと、クライアントサイドでレンダリングをするクライアントサイドWebアプリケーションの基礎を学ぶ	2前	90	4	△	○		○		○		
9	○			データベース設計	Microsoft Accessを用いて、データベースの基本的な考え方やテーブルの設計方法を学ぶ。また、Accessでデータベースを用いたシステム作成を学ぶ	1後	45	2	△	○		○			○	
10	○			データベース	リレーショナルデータベースでテーブルを操作するためのSQLを学ぶ	2前	45	2	△	○		○		○		
11	○			スマートフォンアプリ開発基礎	スマートフォンアプリの作成方法を学ぶ	2前	45	2	△	○		○		○		
12	○			クラウドサービス基礎	クラウドサービスを利用したスマートフォンアプリの作成方法を学ぶ。利用するのは認証やストレージ、DBaaS	2後	45	2	△	○		○		○		

13	○		グラフィック 1	Photoshopの基本操作を理解し画像編集の技術を学ぶ	1 前	45	2	△	○		○			○	○
14	○		グラフィック 2	Illustratorの基本操作を理解し、オブジェクトを編集しコンテンツ制作を学ぶ	2 後	45	2	△	○		○			○	○
15	○		3Dモデリン グ	3DCGを理解し、自由曲面・ポリゴンメッシュで形状を作成、キャラクターの作り方を学ぶ	1 前	45	2	△	○		○		○		
16	○		ゲーム開発1	Unityの基本操作を理解し、キャラクターを組み込んで3Dゲームの作成方法を学ぶ	1 前	45	2	△	○		○		○		
17	○		ゲーム開発2	C#スクリプトの文法を理解し、UnityにC#スクリプトを組み込んだ3Dゲームの作成方法を学ぶ	1 後	45	2	△	○		○		○		
18	○		ゲーム開発3	UnityとVroidStudioを使用しメタバースのCluster操作編集方法を理解し、アバターを作成して、メタバースのClusterにワールドの作成方法を学ぶ	2 前	45	2	△	○		○		○		
19	○		IoT基礎	ビューとローバーARMの組み立て、C言語を使ったプログラミングを理解し、組み込みプログラミングの基礎を学ぶ	2 後	45	2	△	○		○		○		
20	○		製図基礎1	Jw_cadを使用し製図の基礎を理解し、JIS規格に基づいた製図の基本を学ぶ	1 後	45	2	△	○		○		○		
21	○		製図基礎2	Jw_cadを使用し組み立て機械製図の図面作成方法を学ぶ	2 後	45	2	△	○		○		○		○
22	○		オフィス1	WordとExcelの基礎操作を理解し、Microsoft Office Specialist検定の合格を目指す	1 前	45	2	△	○		○			○	
23	○		オフィス2	PowerPointの基礎操作を理解し、Microsoft Office Specialist検定の合格とプレゼンテーション技法を学ぶ	1 後	45	2	△	○		○			○	
24	○		動画編集	Premiere ProとAfter Effectsの基本操作を理解し、動画作成方法を学ぶ	2 前	45	2	△	○		○		○		
25		○	グラフィック デザイン	デザインの基礎を学び、効率的な印刷物を制作を学ぶ	2 前	45	2	△	○		○			○	
26	○		教養1	社会人として身につけてる必要のあるビジネスマナーを学ぶ	1 前	45	3	○			○			○	
27	○		教養2	ビジネス文書検定や社会人として必要な知識を学ぶ	2 前	45	3	○			○			○	

28	○		教養3	働くときに知っておきたい基礎知識と職場でのメンタルヘルス対策を学ぶ	2後	45	3	○			○										
29		○	プレゼンテーション	プレゼンの意味の理解とプレゼンを効果的に行うための考えを学ぶ	2前	45	2	△	○		○									○	
30		○	企業実習	企業と連携し、会社見学や業務への参加を通し実践的な身につける	2前	45	2	△		○	○	○								○	
31	○		キャリアサポート1	ビジネスの基礎を理解し、自己分析や業界研究を行いながら就職活動の流れを学ぶ	1後	45	2	○	△		○									○	
32	○		キャリアサポート2	自己分析や業界研究を深め、就職活動に必要な応募書類作成や筆記試験対策、面接試験の練習を行う	2前	45	2	○	△		○									○	
33	○		キャリアデザイン	就職活動の準備として、キャリアへの意識を高め、自己分析や業界・企業研究を行い、就職適正試験対策を行う	1前	45	3	○			○										○
34		○	課題制作1	参加型授業によって新規プロジェクトの企画・プレゼンからアウトプットまでの手法を学ぶ	2前	45	2	△	○		○	○									○
35		○	課題制作2	情報をデザイン化するための思想と論理、および表現方法を身につける	2前	45	2	△	○		○										○
36	○		卒業制作	習得した技術を使い、企画、設計、開発までを行い作品を効果的に発表できる方法を学ぶ	2後	135	6	△	○		○										○
合計					36 科目					92 単位 (単位時間)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 学費を完納していること 86単位を取得すること		1学年の学期区分	2期
履修方法： 必修科目は全員履修するほか選択科目を4単位以上取得		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。